



たけだ しゅういち  
武田 周一

生年月日 昭和13年11月4日

【略歴】

- 昭和33年 4月 東京大学教養学部文科2類入学
- 昭和35年 4月 東京大学文学部独逸文学科進学
- 昭和37年 3月 東京大学文学部独逸文学科卒業
- 昭和37年 4月 東京大学大学院人文科学研究科独語・独文学専門課程入学
- 昭和40年 3月 東京大学大学院人文科学研究科独語・独文学専門課程修了(修士)
- 昭和40年 4月 広島大学教養部助手
- 昭和41年 4月 広島大学教養部講師
- 昭和45年 4月 名古屋大学法学部講師
- 昭和46年 4月 名古屋大学教養部講師
- 昭和48年 9月 名古屋大学教養部助教授
- 昭和54年 4月 名古屋大学総合言語センター助教授
- 昭和61年 8月 名古屋大学総合言語センター教授
- 平成3年 4月 名古屋大学言語文化部教授
- 平成10年 4月 名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授
- 平成14年 3月 名古屋大学大学院国際言語研究科を定年退職

【論文】

1. ゴットフリート・ベンの短編『誕生日』試論 そのライトモチーフ技法について  
日本独文学会中国・四国支部会報告 昭和40年10月 昭和40年中央大学における日本独文学会総会・研究発表会での口頭発表原稿に加筆したもの
2. ゴットフリート・ベンの芸術家意識の問題性 特に『レンネ』以後第二次大戦まで  
広島大学教養部紀要『外国文学研究』Vol. 12 昭和41年3月
3. 『九時半の玉突き』について ベルの作品から  
広島大学教養部紀要『外国文学研究』Vol. 14 昭和43年3月
4. 1931年のゴットフリート・ベン 聖楽曲『たえざるもの』について  
広島大学『教養部紀要I』Vol. 16 昭和44年3月
5. テーオドル・フォンターネの『迷い、混乱』について  
名古屋大学教養部紀要『外国語・外国文学』第17 昭和48年3月
6. テーオドル・フォンターネの『エフィー・ブリースト』について  
名古屋大学『教養部紀要C』第20 昭和51年2月
7. トーマス・マンの『詐欺師フェーリクス・クルルの告白、回想の第一部』  
名古屋大学『教養部紀要C』第22 昭和53年3月
8. テーオドル・フォンターネの『シャッハ・フォン・ヴェテノウ』について  
名古屋大学総合言語センター『言語文化論集』第4巻第1号 昭和55年12月
9. フォンターネの描く女性像について 『セシル』と『不貞妻』を中心として  
その(1)『セシル』  
名古屋大学総合言語センター『言語文化論集』第2巻第1号
10. テーオドル・フォンターネの描く女性像 その(2)『不貞妻』の場合  
名古屋大学総合言語センター『言語文化論集』第4巻第1号 昭和57年10月
11. テーオドル・フォンターネの小説世界に関する考察 『Stechlin湖』について  
名古屋大学総合言語センター『言語文化論集』第5巻第1号 昭和58年10月
12. テーオドル・フォンターネの描く女性像 『イエニー・トライベル夫人』について  
名古屋大学総合言語センター『言語文化論集』第6巻第1号 昭和59年11月
13. 『ハンの木の崖』論 犯罪と女性  
名古屋大学総合言語センター『言語文化論集』第13巻第1号 平成3年11月
14. ユダヤ人迫害についての一試論(1)  
名古屋大学言語文化部『言語文化論集』第14巻第1号 平成4年11月
15. ユダヤ人迫害についての一試論(2)  
名古屋大学言語文化部『言語文化論集』第15巻第1号 平成5年11月
16. ユダヤ人観についての一考察 Th. Fontaneの場合  
名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科『言語文化論集』第22巻第2号 平成13年3月

【著書】

1. 明解ドイツ文法入門 三修社 昭和61年5月 千葉大学教授 前田彰一と共著
2. 短編小説集『彷徨』近代文芸社 平成9年9月